

# 2025年3月期 第3四半期 決算説明資料

2025年2月3日



# CONTENTS

1.	2025年3月期 第3四半期 決算概要	3
2.	2025年3月期 業績予想	15
3.	中期経営計画達成に向けた重点取り組み	17
4.	APPENDIX	21

# CONTENTS

<b>1.</b>	<b>2025年3月期 第3四半期 決算概要</b>	<b>3</b>
2.	2025年3月期 業績予想	15
3.	中期経営計画達成に向けた重点取り組み	17
4.	APPENDIX	21

売上高

9,110億円

前期比増減

+280億円 (+3.2%)

営業利益

224億円

前期比増減

+4億円 (+2.1%)

【前期比】売上高・営業利益ともに前期を上回る

- 外出及びインバウンド需要増加に伴う関連商材の拡売、新規商材の取扱強化など売上拡大施策が奏功
- 値上げ及び高付加価値品拡売に伴う単価上昇が売上高を押し上げ
- 売上拡大に伴う売上総利益の増加に加え、変動費の抑制や固定費吸収効果による販管費率の低下が寄与

## 販売活動の強化及び、利益拡大施策が奏功し増収増益

単位：億円 /（対売比）	2024年3月期 3Q 実績	2025年3月期 3Q 実績	増減	増減率
売上高	8,830	<b>9,110</b>	+280	+3.2%
売上総利益	663 (7.52)	<b>680</b> (7.47)	+16 (△0.05)	+2.5%
販管費	444 (5.03)	<b>455</b> (5.00)	+11 (△0.03)	+2.6%
営業利益	219 (2.49)	<b>224</b> (2.46)	+4 (△0.03)	+2.1%
経常利益	246 (2.79)	<b>254</b> (2.79)	+7 (0.00)	+3.1%
四半期純利益	171 (1.94)	<b>182</b> (2.01)	+11 (+0.07)	+6.6%

### 売上高

- ・ 外出およびインバウンド商材の好調
- ・ 高付加価値および新規取扱商材の好調
- ・ サプリメントを中心とした一部商材の買い控えが発生

### 売上総利益

- ・ 売上拡大を軸とする粗利改善施策が奏功
- ・ センターフィ及び物流受託原価の増加により売上総利益率が減少
- ・ 食品物流受託開始に伴う初期費用  
(△2.4億円 △0.02%)

### 販管費

- ・ 売上拡大に伴う固定費吸収効果
- ・ 人件費、配送費の単価が上昇する環境で販管費率が前期を下回る

売上拡大を軸とする売上総利益の増加や、改善取り組みによる販管費率の低下により、営業利益は前期を上回る

単位：億円 /（対売比）	1Q			2Q			3Q		
	2024年3月期	2025年3月期	増減	2024年3月期	2025年3月期	増減	2024年3月期	2025年3月期	増減
売上高	2,935	<b>3,029</b>	+93 [+3.2%]	2,899	<b>2,975</b>	+76 [+2.6%]	2,996	<b>3,106</b>	+110 [+3.7%]
売上総利益	217 (7.39)	<b>223</b> (7.38)	+6 (△0.01)	216 (7.46)	<b>218</b> (7.34)	+2 (△0.12)	230 (7.69)	<b>238</b> (7.67)	+7 (△0.02)
販管費	147 (5.02)	<b>149</b> (4.93)	+1 (△0.09)	148 (5.12)	<b>152</b> (5.14)	+4 (+0.02)	148 (4.96)	<b>153</b> (4.95)	+5 (△0.01)
営業利益	69 (2.38)	<b>74</b> (2.45)	+4 (+0.07)	67 (2.34)	<b>65</b> (2.20)	△2 (△0.14)	81 (2.74)	<b>84</b> (2.72)	+2 (△0.02)
経常利益	78 (2.67)	<b>83</b> (2.74)	+4 (+0.07)	77 (2.68)	<b>78</b> (2.65)	+1 (△0.03)	90 (3.02)	<b>92</b> (2.97)	+1 (△0.05)
四半期純利益	55 (1.88)	<b>60</b> (2.01)	+5 (+0.13)	53 (1.85)	<b>58</b> (1.96)	+4 (+0.11)	62 (2.09)	<b>63</b> (2.06)	+1 (△0.03)

➤ プラス要因     
 ➤ マイナス要因

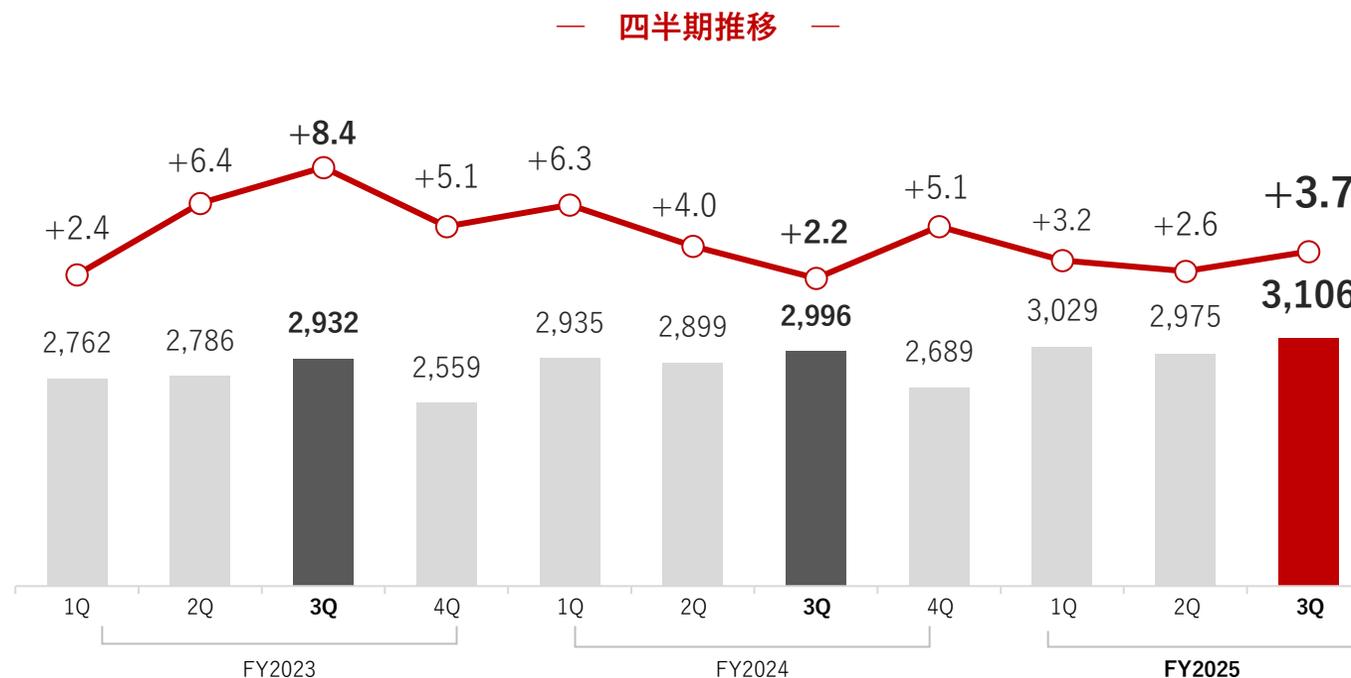
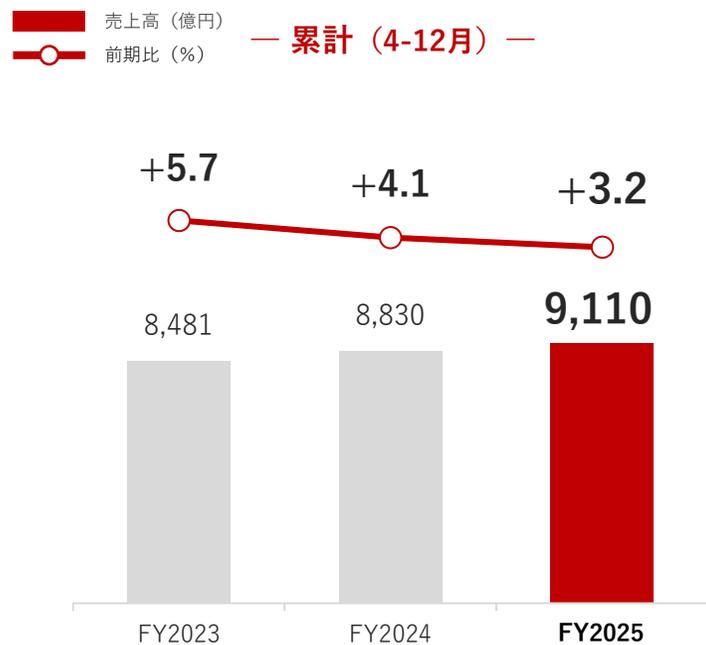
	2024年3月期		2025年3月期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
脱コロナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>外出増加に伴う化粧品・医薬品の需要拡大</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コロナ5類移行後1年が経過し、需要の伸びが緩やかに</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>インバウンド需要拡大（化粧品・医薬品）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コロナ5類移行後1年が経過し、需要の伸びが緩やかに</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生関連商材の需要減少（マスク・消毒液）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コロナ5類移行後1年が経過も、需要の減少が継続</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>抗原検査キット 23/3期特需の反動減</li> </ul>				
物価高騰	<ul style="list-style-type: none"> <li>節約志向（選別消費）の定着 販売数量が減少傾向</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>値上げ 及び 高付加価値化による単価の上昇</li> </ul>				
気候	<ul style="list-style-type: none"> <li>暖冬によりカイロが苦戦</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 高気温で夏物商材が好調（殺虫剤・シーズン化粧品など）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 残暑で夏物商材が好調（殺虫剤・シーズン化粧品など）</li> <li>➤ カイロは11月後半から気温低下により需要が伸長</li> </ul>

**累計** 外出の増加やインバウンド需要の高まり、生活者ニーズの多様化に対応した新規商材の拡充など  
環境変化を捉えた売上拡大施策が奏功し前期を上回る (YoY+280億円 +3.2%)

(主な要因) 増収：外出関連商材の需要拡大 / インバウンド需要の拡大 / 猛暑・残暑による殺虫剤やシーズン化粧品の需要拡大 / 新規商材の取扱強化 / 値上げや高付加価値品の拡売に伴う単価上昇  
減収：コロナ関連商材の需要減少 / サプリメントを中心とした一部商材の買い控え

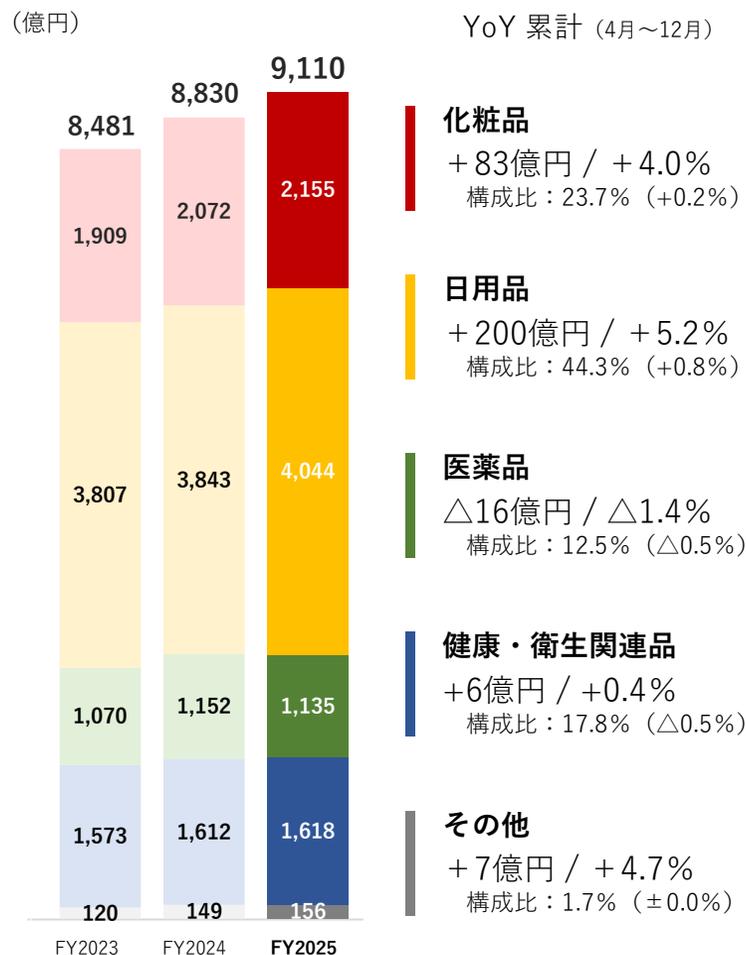
**3Q** 2Qまでの上記トレンドが継続。需要の変化に対応した販売活動が奏功 (YoY+110億円 +3.7%)

感染症流行に伴う風邪関連薬の需要増、10月の記録的高気温による夏物商材の好調、営業日数の増加 (+1日)

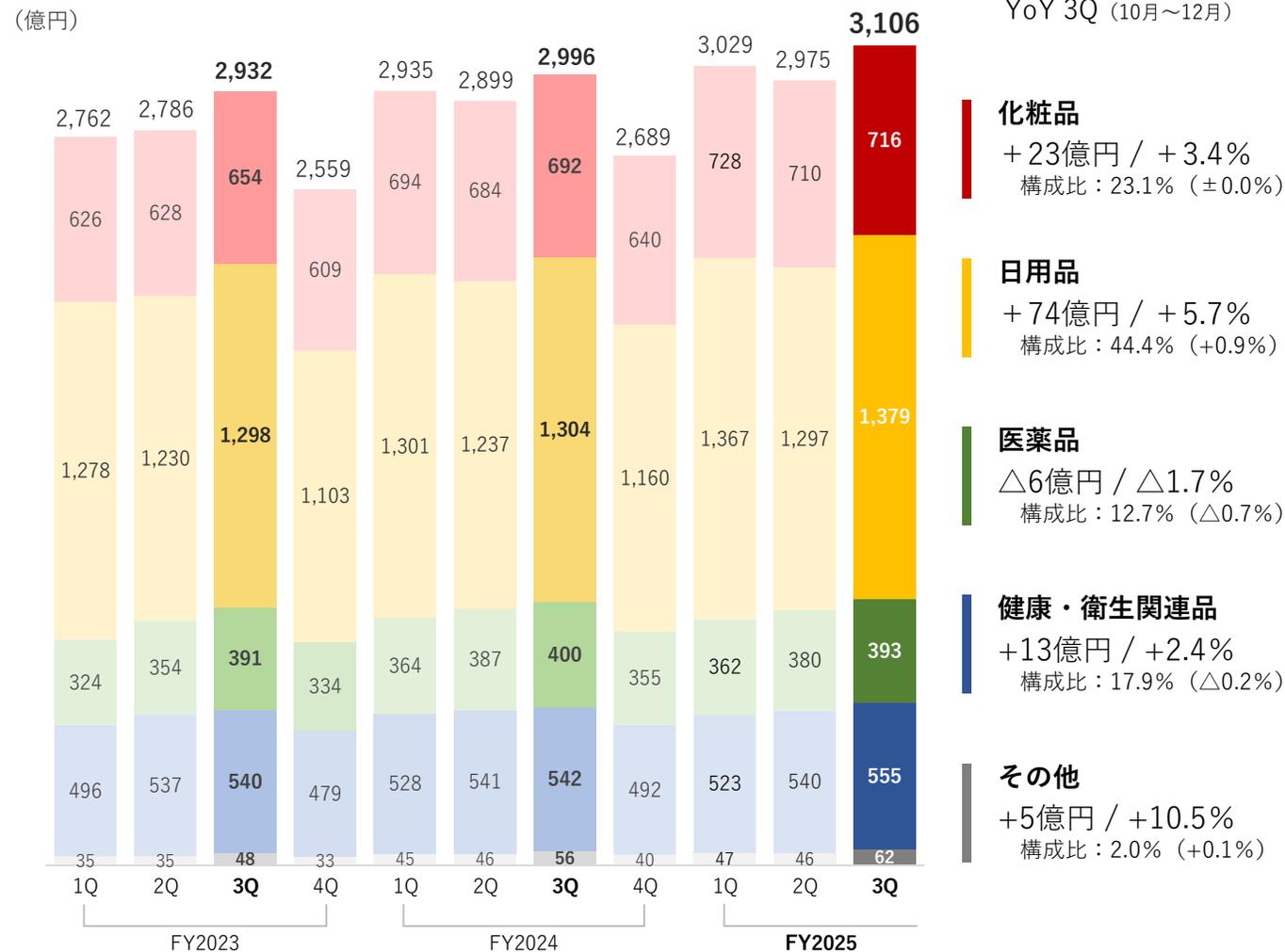


# 2025年3月期 第3四半期 前期比 商品分類別売上高

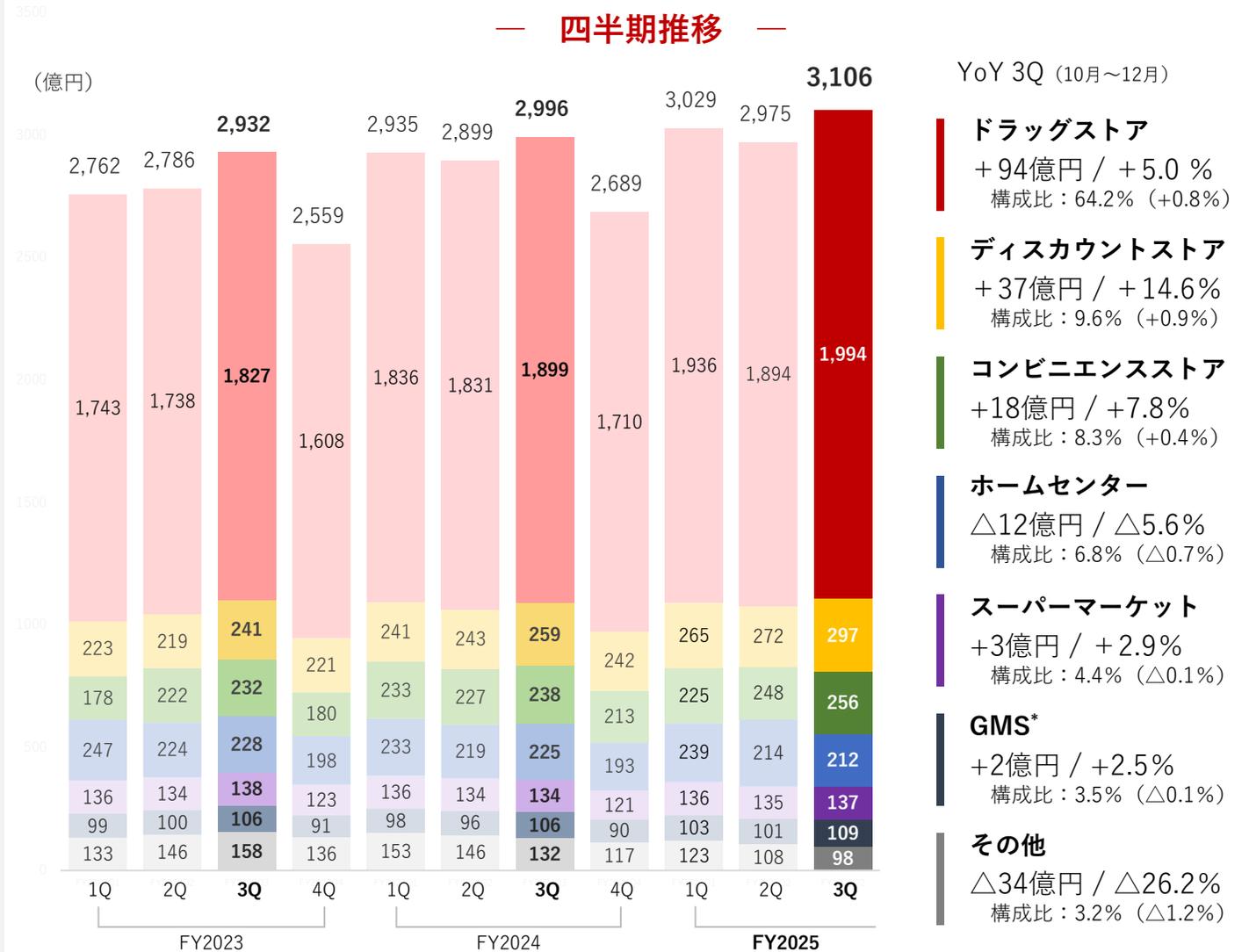
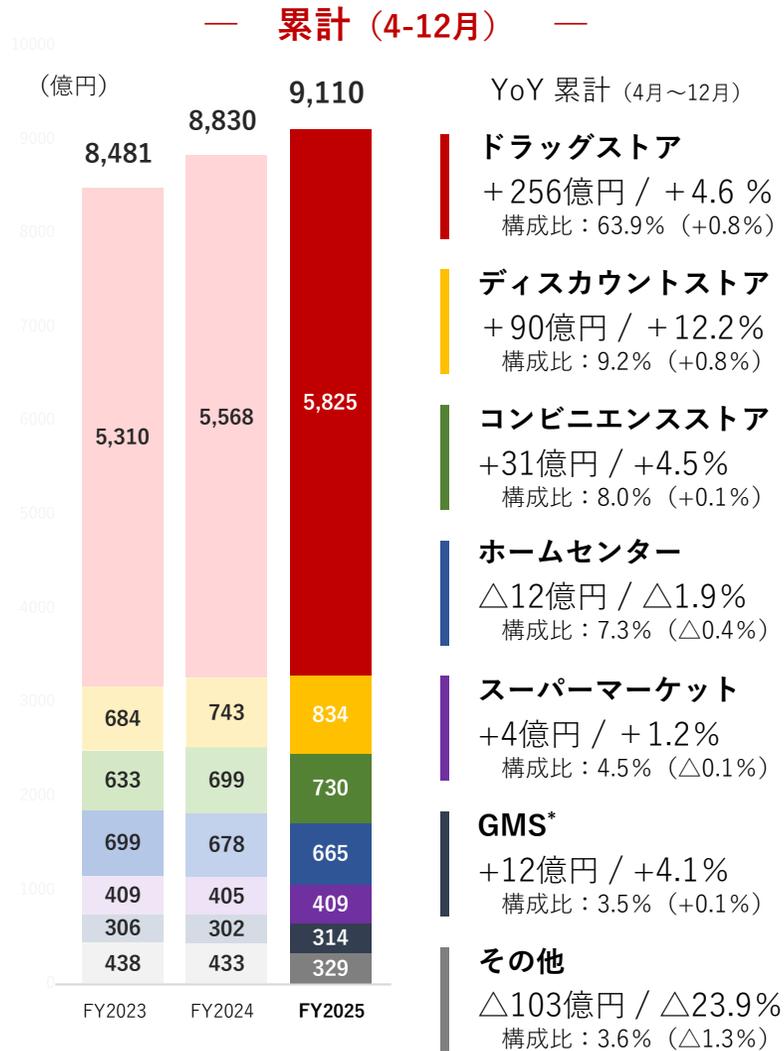
## — 累計 (4-12月) —



## — 四半期推移 —



# 2025年3月期 第3四半期 前期比 販売先業態別売上高



\* GMSはゼネラルマーチャンダイジングストアの略

## 累計

売上拡大や売買差益の改善により額は増加も、食品物流受託開始に伴う初期費用、卸売業界における価格競争激化、物価高騰などの影響を受け、率では前期を下回る（YoY+16億円 対売比△0.05%）

（主な要因）改善：売上拡大に伴う売上総利益額の確保 / 粗利率の高い高付加価値品（新規商材含む）の販売強化

悪化：センターフィの増加（センターフィ発生企業の売上増・燃料費高騰等） / 粗利率の高い衛生用品の需要減少

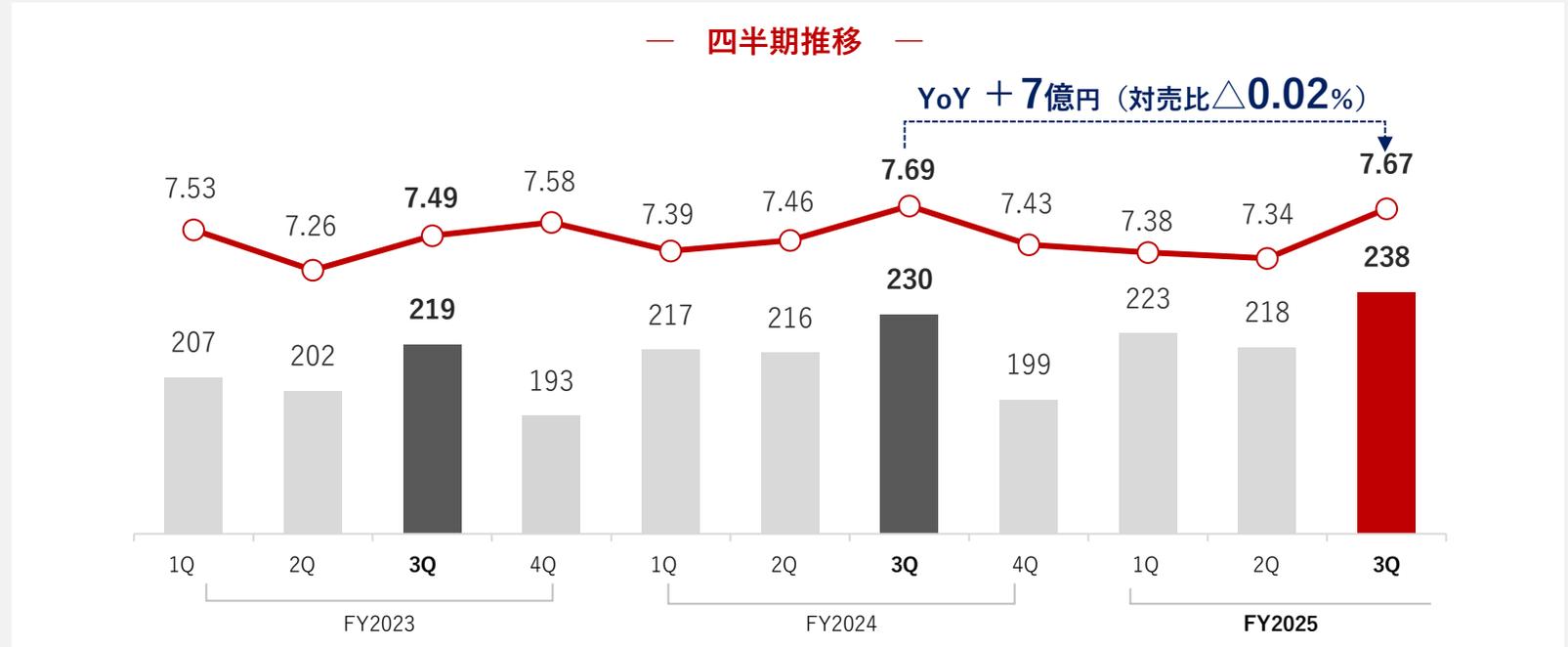
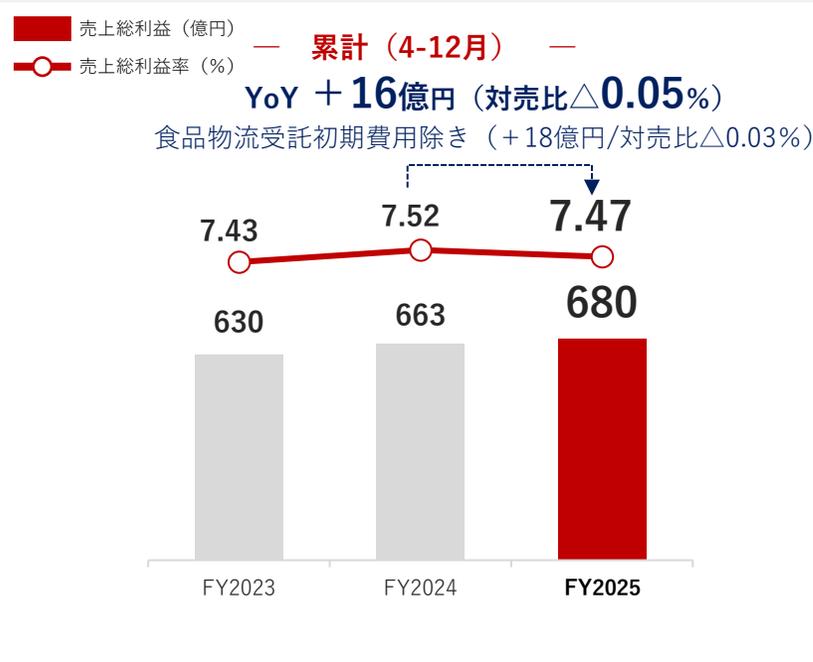
食品物流受託開始に伴う初期費用（△2.4億円）（※初期費用除き：YoY+18億円 対売比△0.03%）

物流費高騰による物流受託原価の増加（配送費・人件費など）

## 3Q

利益確保が厳しい環境下も、前期並みの粗利率を維持（YoY+7億円 対売比△0.02%）

センターフィの増加等が続くなか、売買差益の改善や高付加価値品（新規含む）の強化により粗利率の悪化を抑制

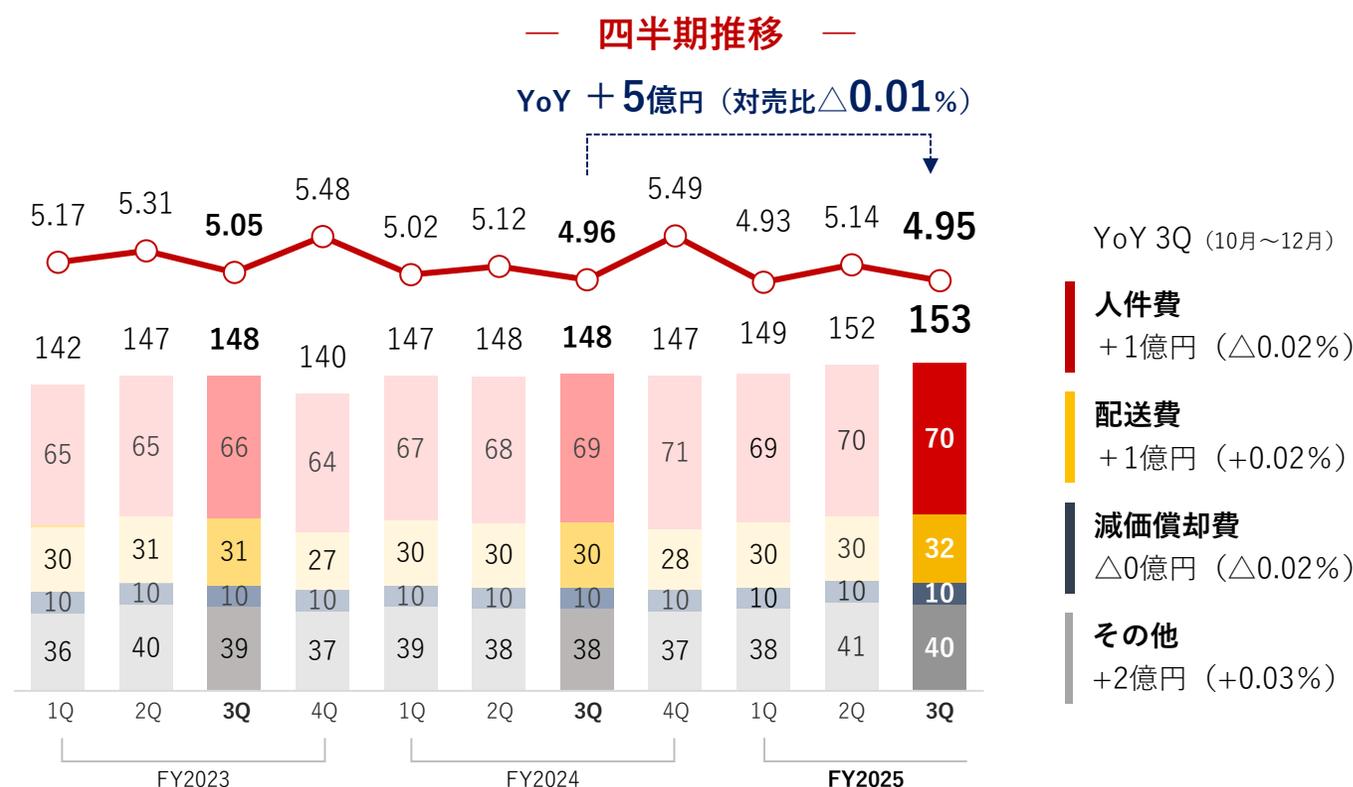
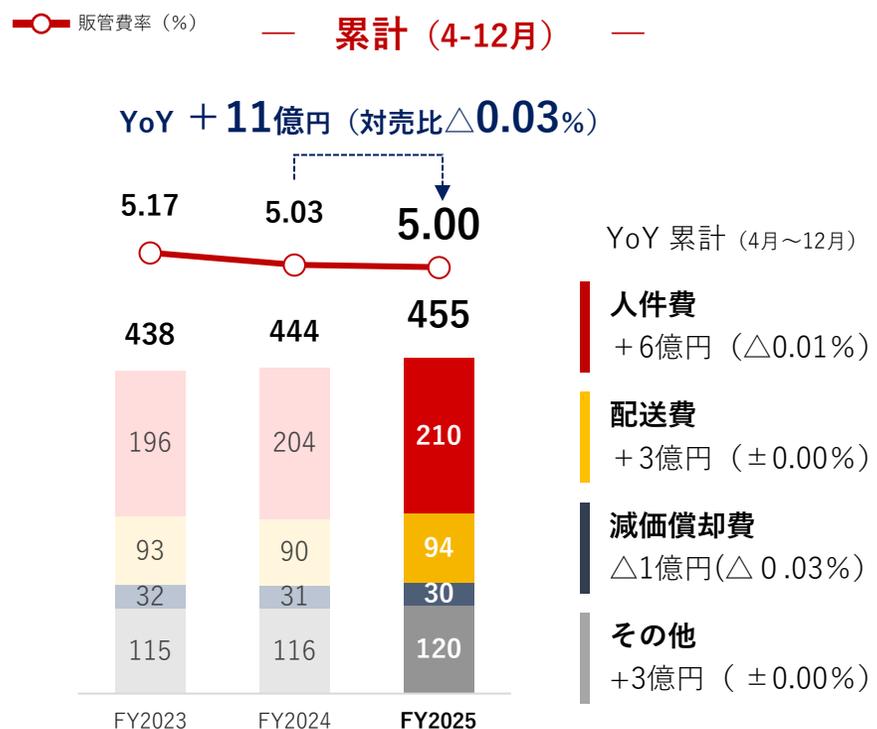


**累計** 人財投資により額は増加も、改善取り組みや固定費吸収効果により販管費率は改善 (YoY+11億円 対売比△0.03%)

(主な要因) 増加：人財投資 (人財確保、賃金引上げ)、自社センターの長寿命化方針に伴う修繕費の増加

改善：増収に伴う固定費吸収効果、配送費単価高騰の環境下における配送費率の維持 (配送費率±0.00%)

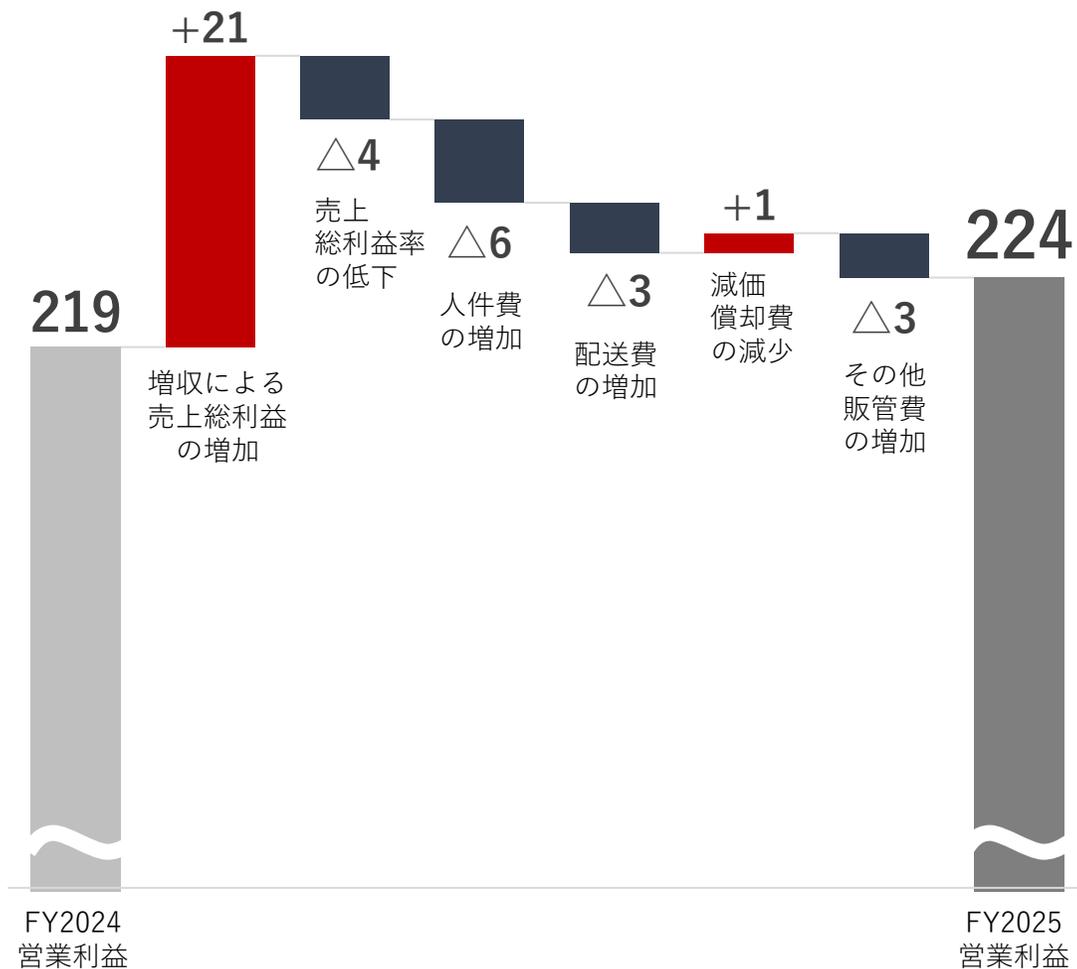
**3Q** 配送費や修繕費の増加により額は増加も、固定費吸収効果により販管費率は改善 (YoY+5億円 対売比△0.01%)



# 2025年3月期 第3四半期 前期比 営業利益

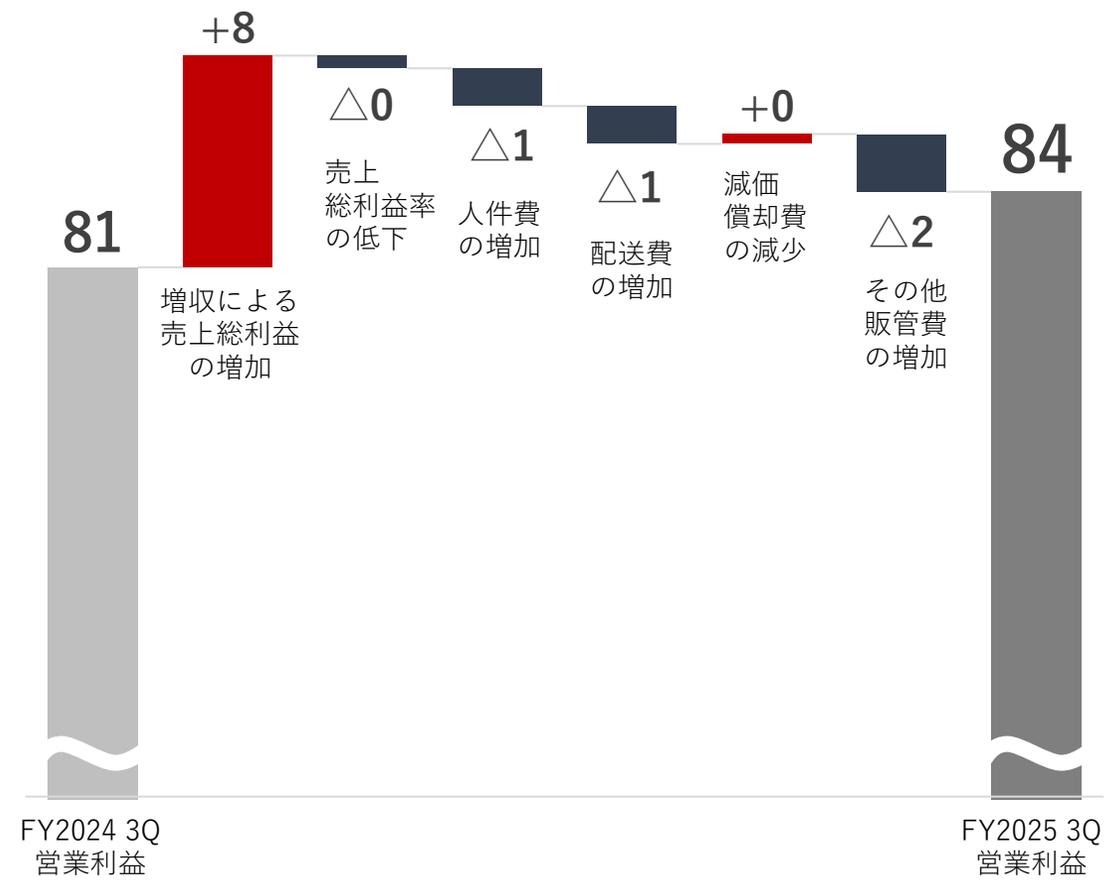
(単位：億円)

## — 累計 (4-12月) —



(単位：億円)

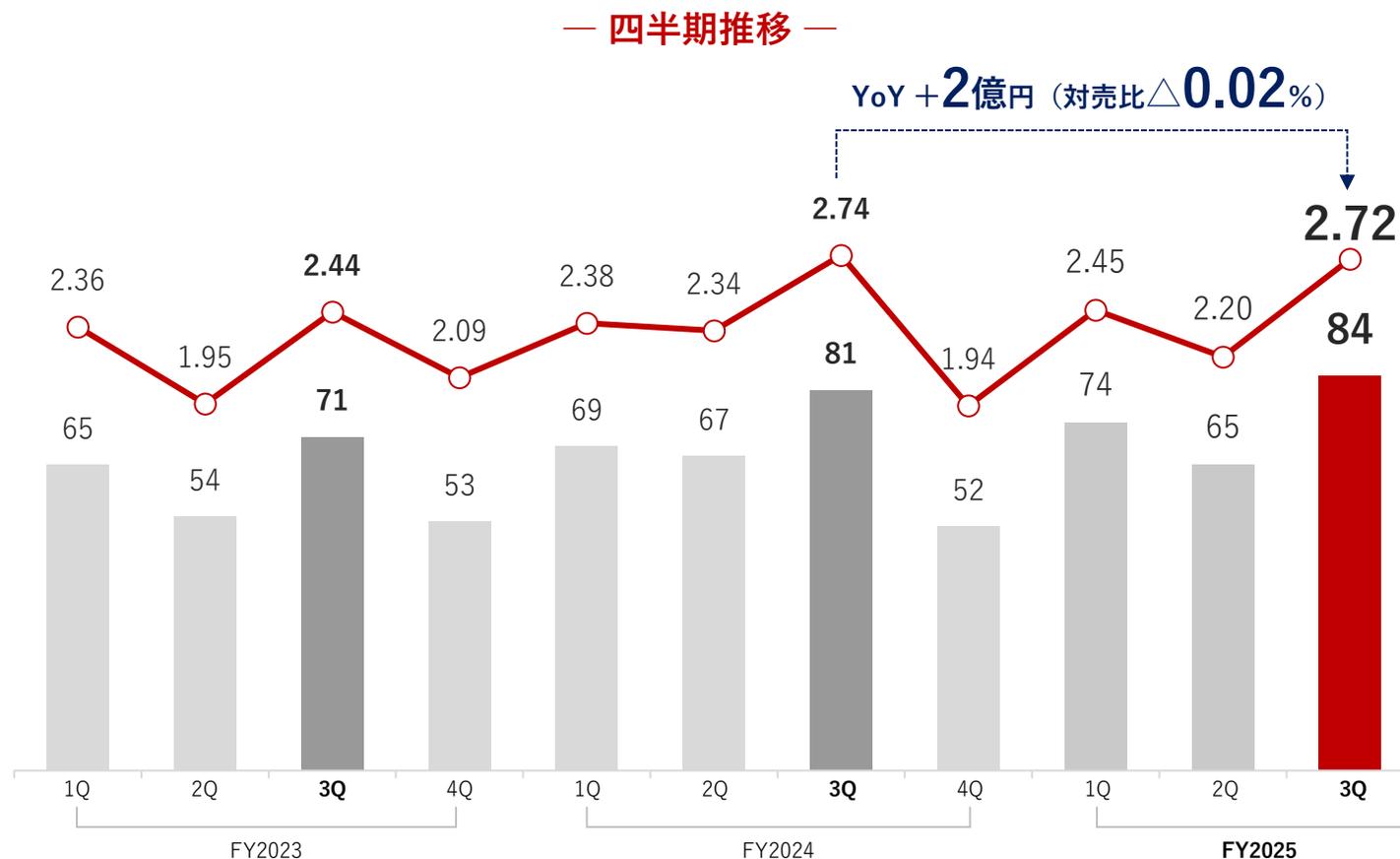
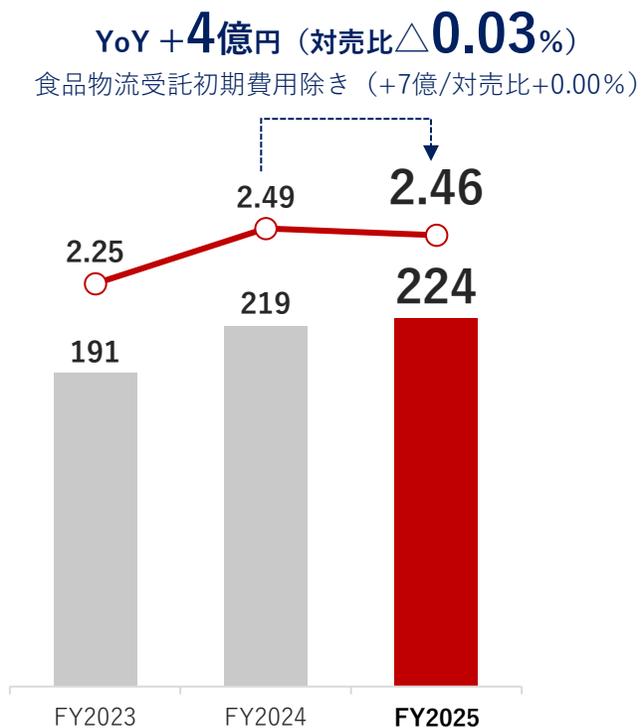
## — 3Q (10-12月) —



**累計** 額は増加も、売上総利益率の低下により率は前期を下回る (YoY+4億円 対売比△0.03%)

**3Q** 累計同様、額は増加も、売上総利益率の低下により率は前期を下回る (YoY+2億円 対売比△0.02%)

■ 営業利益 (億円) — 累計 (4-12月) —  
 ○ 営業利益率 (%)



# CONTENTS

1.	2025年3月期 第3四半期 決算概要	3
2.	<b>2025年3月期 業績予想</b>	<b>15</b>
3.	中期経営計画達成に向けた重点取り組み	17
4.	APPENDIX	21

# 2025年3月期 業績予想（期初計画から変更なし）



- 物価高騰や人手不足に伴う物流費の高騰など厳しい事業環境は継続すると予想
- 2025年3月期は、長期ビジョン実現に向けた新中計「構造改革による変革基盤の構築」の初年度新たな価値創造に向けた原資獲得に向け、着実な売上・利益の拡大を狙う

単位：億円 /（対売比）	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	増減	増減率
売上高	11,519	<b>11,900</b>	+380	+3.3%
売上総利益	863 (7.50)	<b>887</b> <b>(7.45)</b>	+23 (△0.05)	+2.7%
販管費	591 (5.14)	<b>607</b> <b>(5.10)</b>	+15 (△0.04)	+2.6%
営業利益	271 (2.36)	<b>280</b> <b>(2.35)</b>	+8 (△0.01)	+3.0%
経常利益	305 (2.65)	<b>317</b> <b>(2.66)</b>	+11 (+0.01)	+3.8%
当期純利益	206 (1.79)	<b>220</b> <b>(1.85)</b>	+13 (+0.06)	+6.6%
1株当たり純利益（円）	328.40	<b>350.06</b>	+21.66	+6.6%

## 売上高

- 多様化する生活者ニーズに対応した新規商材の取扱強化
- 当社機能を活かした迅速かつ効果的な販促提案強化

## 売上総利益

- センターフィ率等の上昇（物価高騰・配送費上昇等が影響）
- 食品物流受託開始に伴う初期費用（年間2.2億円）

## 販管費

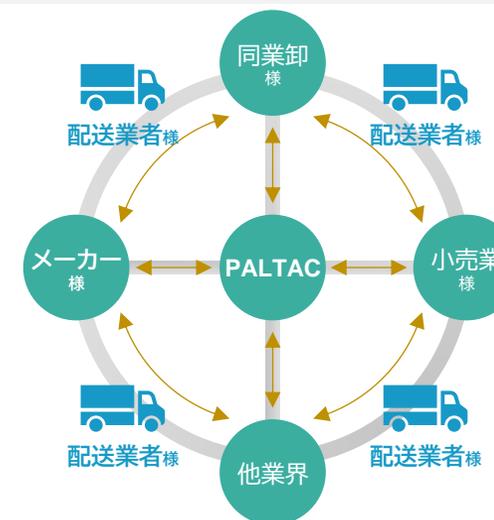
- 売上拡大に伴う固定費吸収効果
- 人財投資（人財確保、賃金上昇）
- 配送費単価の上昇

# CONTENTS

1.	2025年3月期 第3四半期 決算概要	3
2.	2025年3月期 業績予想	15
3.	<b>中期経営計画達成に向けた重点取り組み</b>	<b>17</b>
4.	APPENDIX	21

## 配送改善の強化

- ▶ 協働の推進と多角的な改善アプローチによりドライバー不足に対応できる配送網を構築
- ▶ 競争や業界の垣根を超えた協働の輪を更に広げ、施策の効果を高める



- ▶ 配送業者様と小売業様との協働により効率的かつサステナブルな物流を実現

**グリーン物流優良事業者表彰において部門賞「物流DX・標準化表彰」を共同受賞**  
(佐川急便様×薬王堂様×PALTAC)

**Point 1** 配送積載効率考慮型のAIと、需要予測により、車両台数の最適化を実現

**Point 2** 中継地を設け、食品・非食品を混載することで積載率の向上・配送距離の短縮を実現

トラック台数  
走行距離の削減により  
**CO2削減に貢献**

※詳細は2024年12月24日リリースの「グリーン物流優良事業者表彰において部門賞「物流DX・標準化表彰」を共同受賞」をご確認ください  
(URL: <https://www.paltac.co.jp/tomorrow/news.html>)

## 物流の価値提供領域の拡大

### 三菱食品との物流における協働取り組みを始動

業界の垣根を超えた連携 = 持続可能な物流の実現に向けて

物流の経営資源を両社で共同活用し、  
サプライチェーン・物流網の融合に挑戦



日用品・食品と異なる業界に位置する両社の  
**物流の資産やノウハウの相互活用について**  
**具体的な協議・検討を開始**

< 協議・検討のテーマ >

① 既存物流拠点の活用	両社既存拠点の空きキャパシティ有効活用
② 共同配送の推進	配送車両の空積・空車の共同配送による 配送効率化
③ 共同物流センター の検討	新しいサプライチェーンモデルや最適な 倉庫管理システムの検討
④ 物流DXの共同研究	データ連携基盤構築、将来のマテハン設備 ・システムの共同開発

※詳細は2025年1月21日リリースの「PALTAC、三菱食品と物流における協働取り組み始動に関するお知らせ」をご確認ください  
(URL : <https://www.paltac.co.jp/tomorrow/news.html>)

## サステナビリティ（CO2削減に向けて）

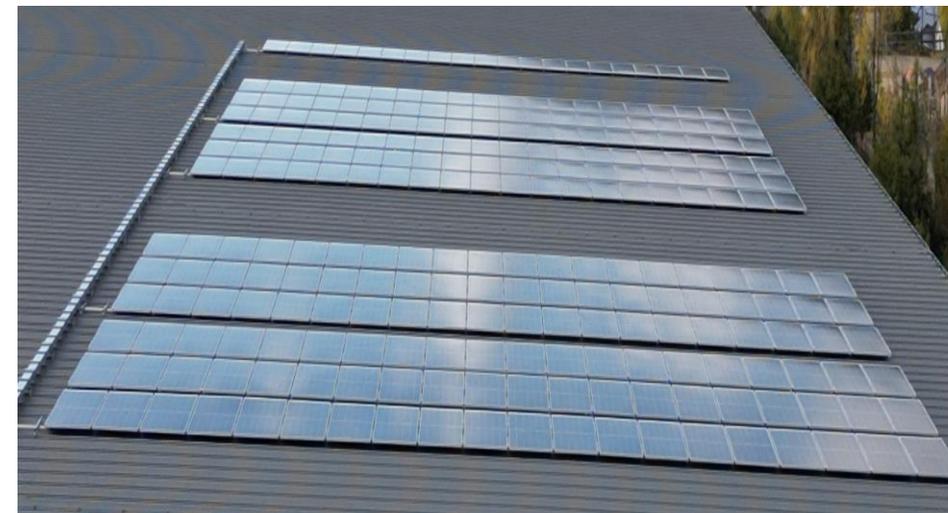
### EVのテスト運用開始<Scope1>

社用車のCO2削減に向け  
ハイブリット化・軽自動車化に加えて  
EVのテスト運用を開始



### 太陽光発電装置の設置<Scope2>

FDC広島(広島市)の屋上で  
12月から稼働開始  
<FDC広島で年間30%程度のCO2削減を見込む>  
(※FDC広島の前期排出量との比較)



# CONTENTS

1.	2025年3月期 第3四半期 決算概要	3
2.	2025年3月期 業績予想	15
3.	中期経営計画達成に向けた重点取り組み	17
4.	<b>APPENDIX</b>	<b>21</b>

# 2025年3月期 商品分類別売上高（四半期推移）

単位：億円	FY2025					
	1Q	前期比	2Q	前期比	3Q	前期比
売上高	3,029	+93 [+3.2%]	2,975	+76 [+2.6%]	3,106	+110 [+3.7%]
化粧品	728	+34 [+4.9%]	710	+25 [+3.8%]	716	+23 [+3.4%]
日用品	1,367	+66 [+5.1%]	1,297	+59 [+4.8%]	1,379	+74 [+5.7%]
医薬品	362	△2 [△0.6%]	380	△7 [△1.9%]	393	△6 [△1.7%]
健康・衛生関連品	523	△5 [△1.0%]	540	△1 [△0.4%]	555	+13 [+2.4%]
その他	47	+1 [+2.5%]	46	△0 [△0.0%]	62	+5 [+10.5%]

# 2025年3月期 販売先業態別売上高（四半期推移）

単位：億円	FY2025					
	1Q	前期比	2Q	前期比	3Q	前期比
売上高	3,029	+93 [+3.2%]	2,975	+76 [+2.6%]	3,106	+110 [+3.7%]
ドラッグストア	1,936	+99 [+5.4%]	1,894	+63 [+3.5%]	1,994	+94 [+5.0%]
ディスカウントストア	265	+23 [+9.9%]	272	+29 [+12.0%]	297	+37 [+14.6%]
コンビニエンスストア	225	△8 [△3.7%]	248	+21 [+9.6%]	256	+18 [+7.8%]
ホームセンター	239	+5 [+2.3%]	214	△5 [△2.5%]	212	△12 [△5.6%]
スーパーマーケット	136	△0 [△0.2%]	135	+1 [+0.9%]	137	+3 [+2.9%]
GMS *	103	+4 [+4.9%]	101	+4 [+5.0%]	109	+2 [+2.5%]
その他	123	△30 [△19.8%]	108	△38 [△26.2%]	98	△34 [△26.2%]

\* GMSはゼネラルマーチャンドライジングストアの略

単位：億円 /（対売比）	FY2025/3計画								
	通期	対前期		上期	対前期		下期	対前期	
		増減	増減率		増減	増減率		増減	増減率
売上高	11,900	+380	+3.3%	6,040	+205	+3.5%	5,860	+174	+3.1%
売上総利益	887 (7.45)	+23 (△0.05)	+2.7%	444 (7.35)	+10 (△0.08)	+2.5%	443 (7.56)	+12 (△0.01)	+3.0%
販管費	607 (5.10)	+15 (△0.04)	+2.6%	305 (5.05)	+9 (△0.02)	+3.2%	302 (5.15)	+5 (△0.06)	+1.9%
営業利益	280 (2.35)	+8 (△0.01)	+3.0%	139 (2.30)	+1 (△0.06)	+1.0%	141 (2.41)	+6 (+0.05)	+5.2%
経常利益	317 (2.66)	+11 (+0.01)	+3.8%	161 (2.67)	+4 (△0.01)	+3.1%	156 (2.66)	+6 (+0.03)	+4.5%
当期純利益	220 (1.85)	+13 (+0.06)	+6.6%	112 (1.85)	+3 (△0.02)	+2.8%	108 (1.84)	+10 (+0.13)	+10.8%

## 将来見通しに関する注意事項

本書において提供される資料並びに情報は、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）には、将来における既知または未知のリスク及び不確実性が内在し、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、当社は、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。